

平成 29 年度文化創造関連事業の実施状況

文化創造都市高岡推進ビジョンに示されたキーワード〈知る、創る、伝える、つなげる〉に基づき、文化創造都市高岡の推進に繋がる取り組みを行ってきた。

今年度は、富山県を会場にして、国際北陸工芸サミットが開催されたことから、文化庁・県と連携し、高岡の芸術文化・ものづくりの原点を築いた「工芸」の発信と、工芸の新たな展開を切り開き、人材育成や産業振興につなげようとする各種事業に取り組んだ。

1 アート&クラフトシティ高岡を表現した事業の実施

(1) 高岡クラフト市場街（知る・創る・つなげる・伝える）

風情ある「町並み」や「食」を楽しみながら、質の高い「クラフト」に出会うことができるイベント。クラフト・伝統工芸の展示・販売、ワークショップ等 74 のプログラムを開催し、高岡のアート、クラフトの魅力を、学生や家族連れなど多様な世代へ伝えるとともに、県外の産地などとの新たなネットワークも創出した。ウェブサイトの英訳版を制作し、海外への情報発信体制の基礎を構築した。

9月22日（金）～24日（日） 来場者数 約 23,000 人

今年度の重点項目

- ①山町ヴァレーを拠点とした事業展開
- ②高校生との連携
- ③国内外への情報発信強化

(2) 文化創造都市高岡市民会議（ひなフェス in 山町ヴァレー）

（知る・創る・つなげる・伝える）

山町筋のひなまつりに合わせて、親子連れでも楽しめる音楽イベントを実施し、その中で、これまで声を聴くことがあまりできなかった子育て世代に対して、本市の文化に対する要望や課題を聞き、意見交換した。会場ではクラフト市場街や市内で開催されているさまざまな文化事業の周知を図った。

3月11日（日） 来場者数 651 人、アンケート回収数 36 件

(3) 銅器団地オープンファクトリー（知る・創る・つなげる・伝える）

戸出銅器団地において、400年の伝統を今に伝える「高岡銅器」の制作現場を一般開放した。

9月22日（金）・23日（土） 21社・23工場 来場者数 511人

(4) 菅笠展覧会・コンテスト・ワークショップ（知る・創る・つなげる）

コンテスト・展覧会 11月18日（土）・19日（日） 来場者数 258人

ワークショップ3回 9月24日（日）、10月7日（土）、11月3日（金）

参加者数延べ 80人

※「越中福岡の菅笠」が平成 29 年 11 月 30 日、国の伝統的工芸品に指定された。

2 文化創造都市高岡テレビ番組の作成（知る・伝える）

文化創造都市高岡の実現に向け、文化を活かしたまちづくりに取り組んでいる方々（大学、活動団体、アーティスト等）を紹介する番組を制作した。

3 文化創造都市高岡ウェブサイトの運営（知る・伝える）

平成 27 年度末に開設したウェブサイト「文化創造都市高岡」の内容を発展させた。今年度、地元ラップバンド「ザ・おめでたズ」による、文化創造都市高岡の PR 動画を公開。若い世代の感性を活かした動画により、これまで文化行政に関わりが薄かった層に対しても、働きかけることができた。富山県市町村広報コンクール映像部門特選。

4 国際北陸工芸サミット関連事業

文化庁と北陸三県が協力し、北陸の工芸の魅力を世界に発信する広域的な催しとして、「国際北陸工芸サミット」を開催した。多彩なプログラムを通して、世界の工芸を取り巻く状況や新しい動向について知り、学び、また「日本の工芸」を世界へ発信する機会として、本市においても各種事業を実施した。

コアウィーク 11 月 16 日（木）～23 日（木・祝）

(1) 高岡市美術館における工芸に関する展覧会の開催（知る・つなげる）

①高岡に開く工芸の華展 11 月 16 日（木）～30 日（木）（高岡市美術館）

②U-50 国際北陸工芸アワードファイナリスト作品展 11 月 25 日（土）～30 日（木）（高岡市美術館）

※工芸アワードファイナリストたちが、地元の企業・工房（能作、アルベキ社）と共同創造プログラムを実施し、完成作品を展示。

来場者数 ①② 計 2,232 人

(2) 国際北陸工芸サミットシンポジウム（県主催・市共催）（知る）

11 月 23 日（木・祝）（高岡市生涯学習センター）

来場者数 約 300 人

(3) 工芸ハッカソン（県主催・市共催）（知る・創る・つなげる・伝える）

県内の職人や工芸作家 10 人と、国内のクリエイターやエンジニアなど一般参加者 27 人がチームに分かれ、「工芸の未来を提案する」アイデアや新しい製品を提案。

9 月 23 日（土）・24 日（日）、11 月 18 日（土）・19 日（日）（高岡市内各所）

参加者数 37 人

公開審査会 11 月 19 日（日） 来場者数 約 100 人

(4) 国際北陸工芸サミット 交流会 in 高岡の開催（市・県共催）（つなげる）

工芸に携わる国内外の専門家（工芸アワード審査員等）と地元の工芸関係者の交流会を開催。

参加者数 53 人（うち海外からの参加者 10 人）

5 大伴家持生誕 1300 年記念関連事業

(1) 演劇 大伴家持「剣に歌に、夢が翔ぶ！」(知る・創る・伝える)

万葉集の代表的歌人大伴家持の生誕から数えて 1300 年にあたることから、大伴家持の生涯を描く演劇を制作・公演。俳優・制作スタッフなどプロ集団と、市民(演技、合唱)と一緒に作る市民参加型の演劇を実施した。

高岡公演 11月26日(日) 観覧者数 742人

東京公演 12月5日(火) 観覧者数 729人

(2) 高岡市美術館における「家持の時代展」の開催(知る)

9月22日(金)～10月22日(日)

来場者数 1,950人

(3) 高校生万葉短歌バトル(知る・創る)

8月7日(月)

応募数 40校 95チームから、8チームが本選出場

(市内6校 26チーム、県内8校 10チーム、県外26校 59チーム)

観戦者 約200人

(4) 記念セレモニー(知る・創る)

10月1日(日) 俳優和泉元彌氏、とよた真帆氏らのトークセッション
地元の幼稚園・保育園児、小・中学生の合唱など

来場者 約400人

6 日本遺産をはじめとする歴史・文化資産を活用した魅力発信関連事業

(1) 高岡市日本遺産推進協議会(知る・つなげる・伝える)

(2) 日本遺産連盟の幹事市としての活動(伝える)

(3) 文化庁事業への協力(知る・創る・つなげる・伝える)

① ニッポンたからものプロジェクト(日本遺産×Live Art)

瑞龍寺を舞台に、日本遺産と伝統芸能を掛け合わせた特別公演。

来場者 500人(1回目300人、2回目200人)

② 日本遺産プレスセンター事業

日本遺産×Live Art を市内中学生らが取材し新聞にまとめた。

参加者 中学生10人、高校生1人

7 藤子・F・不二雄氏の顕彰にかかる関連事業

(1) アトラクティブ高岡推進事業(知る・つなげる・伝える)

① ドラえもんトラム

② 電停ラッピング

③ ドラえもんポストなど

(2) ガイドブック等の制作・配布(知る・伝える)

(3) THE ドラえもん展 TAKAOKA 2018 の開催(知る・伝える)

3月16日(金)～5月6日(日)

8 beyond2020 認証取得（知る・伝える）

県内初の beyond2020 認証を御車山祭で取得。現在 6 件。

※beyond2020 とは、オリンピックパラリンピックを契機に、日本文化の魅力を発信するとともに、共生社会、国際化に繋がるレガシーを創出するため、障がい者にとってのバリアを取り除く取り組みや、外国人にとっての言語の壁を取り除く取り組みに対して与えられる認証制度。

<参考>文化創造課の所管する文化施設

- (1) 高岡市万葉歴史館
- (2) 高岡市美術館
- (3) 高岡市博物館
- (4) ミュゼふくおかカメラ館
- (5) 高岡市民会館（1 月から休館）
- (6) 高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー